かまくら女性史の会 Newsletter

第 136 号
2026 年 3 月 28 日　発行

〒248-0012　鎌倉市御成町 18-10
ＮＰＯセンター鎌倉　気付
メールボックス 26
E-mail: syokmat@yahoo.co.jp

≪雑感≫　～昭和 17～18 年生まれの女性との出合い

「ご親切にありがとうございます～～。三寒四温をへて春の訪れ、2 月は逃げる、3 月は去るとか。10 日は大空襲、東日本大震災、サリン、祈り。ついでに 3 日は私の人生最後の年女。光が見えない日々渡邉様との繋がりは確かなものと、感謝と元気でお会いするのが楽しみです」。

これは 84 歳のＡさん。食糧支援をお願いしたいと電話があり、色々お話させていただき、お届け日の 2～3 日前にメールで再度ご都合をお尋ねしますと約束し、配達日時のお知らせメールをした時の返信である。文面を拝見し、私こそお会いしたいと感じた人である。お会いした時に、確かな生き方をしてこられた女性の力強さを感じた。

近隣の方々12 名で麻雀クラブを作り、毎週一回麻雀をしながら、頭、手を動かすことはもちろん、ただのゲームではなく、情報交換を通して生きる知恵を得ているという。すべての方が 80 代、90 代の永い人生を生きて来た人の集まり、とのこと。嫁、家族の不満等々はなく、前向きなおしゃべりだそうだ。地域の中で居場所を作り、まとめ役のＡさんの素晴らしさに接することができた。鎌倉市も高齢者の孤立、孤独を防ぐための施策をしているようだが、地元に目を向け入っていこう！学ぼう！といいたい。

もう一人Ｂさん。この方は、もう死にたいとＳＯＳの電話が入った人である。話を聞くと、80 歳を過ぎ、貯金も乏しくなり、生きる力をなくしたという。早速、食糧支援を約束し、お届けした。お会いした時は玄関まで出て来るのがやっとで、その場でへたり込んでしまった。心配しながら生年月日を伺うと、私と一か月違いの同い年である。「まだまだこれからですよ。一緒に人生楽しみましょう」と声をかけ、次回の約束をして帰った。先日、配達の日が近づいた頃電話があった。その日は友達が食事にさそってくれたので留守になるとのこと。玄関前に置いておく約束をした。しかし、気になり後日尋ねた。しっかり玄関まで歩いてこられ、元気な姿に嬉しくなった。高齢者雇用の紹介所に出かけ、仕事を少しでもやっていきたい、と話してくれた。Ｂさんも 83 歳、自分でどう生きるか考える力を持っている。

この時代の女性は、敗戦後民主主義教育になった時小学校 1 年生。個人尊重と民主化を教育され、身にしみ込んでいる。

私も宇都宮の一クラスしかない小学校であったが、38 歳の女性校長先生の教育姿勢は忘れられない。また、大学時代はケネディ大統領の「国はあなたのために何をしてくれるかではなく、あなたが国のために何ができるかを問いなさい」と利他精神と責任を呼びかけられた。この言葉に刺激を受けた年代でもある。超高齢化社会の日本。制度、しくみだけでは解決できない現実がある。制度しくみの枠に嵌めるのではなく、目の前で困っている人にどう寄り添い、共に生きていく社会を作るかではないだろうか。

2026 年 3 月 22 日　　かまくら女性史の会会員　　渡邉公子